

エクオールによる更年期女性の脱毛および顔面の毛髪増加の抑制作用についての研究

【代表者】

平田久美子 大阪教育市立大学 教育学部 教授

【共同研究者】

森村美奈 大阪市立大学 医学研究科 准教授

【研究概要（申請書より抜粋）】

頭髪の脱毛や薄毛は更年期女性の 84.9%が自覚し、抑うつ傾向や引きこもりの一因となっている。一方、更年期以降には顔面の毛髪（特に口唇周囲）は増加する傾向にある。こうした現象は、閉経後に女性ホルモンが低下し男性ホルモンの抑制効果が薄れることにより出現すると考えられる。イソフラボンの代謝産物エクオールは、女性ホルモン作用を有する食品であることから更年期症状の改善効果が明らかにされているが、薄毛や顔面の毛髪増加に対する改善効果は明らかではない。本研究の目的は、エクオールが更年期女性の頭皮や顔面の毛髪に及ぼす影響を明らかにし、薄毛や顔面の毛髪増加を抑制する方法として確立することである。毛髪に関する研究は男性を対象とした研究にとどまっている中、更年期女性を対象とし、植物由来の非ステロイド性エストロゲン食品エクオール摂取による脱毛や顔面毛髪増加の抑制効果を検討する点に本研究の独創性がある。本研究で、エクオール摂取による薄毛や顔面の毛髪増加の減少効果が明らかになれば、更年期女性の社会活動への積極的参加を促進する効果が期待される。